

令和 元 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業 (アウトドアテーブル 制作)
事業費		270,000 円 (うち支援金: 250,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

北相木産カラマツを活用して製作することにより、地元産材を効果的に活用するとともに、地元産材の魅力を県内外にアピールする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村 長者の森他

(2) 対象者 来場者

(3) 実施方法

長者の森で開催されるフェスティバルや小学校の授業で、地元木工職人に協力してもらい、制作を行う。

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

簡単に制作でき、かつ日常生活でも使用できるもの(ブックスタンド etc)をキット化し制作してもらう。

②令和元年度実績

アウトドアテーブルキット 50 卓



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・カラマツ材を利用することで森林整備を促進させ、多面的な公益的機能を発揮できる森林づくりへの理解を深められた。
- ・村民及び県内外観光客に対するカラマツ材の魅力の訴求や、カラマツ材利用の意義についての理解浸透してもらえた。

(2) 継続性

- ・地元産カラマツを利用することにより、木製品としての価値を再認識してもらえた。

(3) 普及性

フェスティバルには県外からの来場者も多く、北相木産カラマツのPR活動に最適であった。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・実用性の高いアウトドアテーブルということもあり、制作体験が非常に人気だった。来場者からは「手触りが良い」「カラマツでも木工品が作れると分かった」「来年はどんなものが作れるか楽しみ」との声が聞かれた。

(2) 課題

- ・年に一度のイベントだけではなく、ほかのイベントにも参加し、実際にカラマツに触れ合える機会を増やしていきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・今後も多くの人がカラマツに興味を持ってもらえるように制作キットの種類を増やしていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 元 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(木製ベンチ 制作)
事業費		220,000 円 (うち支援金: 200,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

公共施設(小学校等)に配置することにより木の質感や良さを体感すると同時に、森林の多面的な公益的機能及び地元産材を積極的に利用することの意義を理解してもらおう。北相木産カラマツの需要を増加させることで、森林所有者や林業事業者が意欲的にカラマツ林の更新に取り組めるようにする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木小学校 他

(2) 対象者 小学生 他

(3) 実施方法

- ・北相木産カラマツを使用した学校備品を制作し配置した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度)

小学校の木質化、木製備品の設置

②令和元年度実績

木製ベンチ 4脚



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心が高められた。

(2) 継続性

- ・木製品の良さを認識してもらい、将来的には小学校及び村児童施設の木質化を図っていききたい。

(3) 普及性

- ・山村留学生のほとんどが県外の子供であり、参観日等で多くの保護者にも見てもらえ、北相木産カラマツのPRには適している。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・設置後、すぐに児童たちが興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。

(2) 課題

- ・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

小学校施設の充実を図りながら、多施設への普及も図っていききたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 元 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
3	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(木製コサージュ制作)
事業費		69,000 円 (うち支援金: 55,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

卒業生に 4・5 年生で体験してきた林業体験の記念として木材の新たな利用方法として認識してもらい、将来的に利用方法の拡大を図りたい。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木小学校 他

(2) 対象者 卒業生 他

(3) 実施方法

- ・木材の鉋屑を利用した木製コサージュを卒業生に身に付けてもらう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年度～令和 4 年度)

木製品の活用方法の拡大

②令和元年度実績

木製 コサージュ 21 個



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心を高める。また、枯れることはないののでいつでも北相木小学校で体験した林業体験を思い出せる。

(2) 継続性

- ・木材の新たな利用方法として認知してもらい、利用方法の拡大を図りたい。

(3) 普及性

- ・卒業生の大半が県外であり、多くの人に見てもらえ、北相木産カラマツや木材の利用方法拡大、PRには適している。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・コサージュから漂う木の香りや、木によって違う花の色を見て、木に興味を持ってもらえた。また、林業体験や木工体験の記憶を思い出してもらえた。

(2) 課題

- ・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

毎年、卒業生へのプレゼントにしていきたいことを検討したい。また、ワークショップなどを通して、木との触れ合える機会を増やしていきたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)